

紅林
勲

静岡駅前から呉服町入口付近

表題は作家の村松友規氏が昨年夏の甲子園大会直前に栃木県の地方紙・下野新聞に掲載したエッセーのタイトルである。宇都宮市に居住する29年卒の山田雅子

が気持ちには変わらなかつた。彼女も卒業後市内の大手化粧品会社就職、化粧品モデルとして活躍していた。しばらくして彼女から連絡があり、久し振りに会つたその時、毛皮のハーフコートを身にまとつた洗練された彼女の容姿に圧倒された。これを機に気持ちが変わえ、いたずら心で始まつた二年に渡る恋は終焉となつた。その後新しい出会いを……

今でも忘れないドラマのような我が青春時代の一コマです。

戲心安記

下 里子 桑斤 月風

戯心・安記

私は、静岡県清水市立岡小学校（当所）を卒業すると、静岡市で城內中学校へ通い、県立静岡商業学校を卒業した。

中学校から高校へ進むとき、何人かの級友が静岡商業学校へ進学した。あとで分ることなのだ。

静岡市に在る進学

高校

五分と五分にわたった。私は、ハズレ調を奏すれば、に始まる静岡高校が大好きで、他校の校歌などに三番まで憶えてしまった。

今でも歌えと言われれば、すぐに三番までの歌詞が出てくる。

調子で、私は同じラ

五音など、は静岡の
ブラズバンドをつ
くった。それで再
校の校歌合唱とフ
ラズバンド合戦は

ライバル高

19
2013年

イラスト ウィンダ・キヨロ

6 火
7 水
8 木
9 金
10 土
11 日
12 月

「村松友樹・作家」

に思い出すのである。

権大会の季節のたび

の全国高校野球選手

ったその感動を、夏

のセンスに、恐れ入

た静岡のOJの方々

市の商業を支えてき

感動した。そして、静岡

素晴らしい気運に

私は、三バールの校

どうしてしまっ

ていたことに私はお

のほとんどが静岡OB

に参加した静岡OB

さんが記事を送付してくれた。村松氏は城内中学から静岡高校に入学し慶応義塾大学に進んだが、高校進学時に何人かの級友が静岡商業高校へ進学したことに触れている。当時の進学校は静岡で商業方面の家庭に育った生徒は静岡へ進むというのが普通であったと記している。定期戦を接点として校歌を巡る静岡と静岡卒

は35名内外が進んだ。広報委員から青春の思い出として「静商を受験した理由」が例示されたのでここからはその事情に触れてみたい。幼少の頃に父親と死別しており、兄と妹の3人は母親の手で育てられた。父親は漆器塗装の職人で母親はその下地作業で生計を立て子供三人を高校に進学させた。家計が厳しく中学入学

業生の深い絆が描写され深い感銘を受けた。平成24年12月から1年間 静岡新聞にも「戯心安記」として連載された。

当時から将来の大学進学は諦めていたから当然のように進路は静岡としていた。早く卒業して家計の負担を少なくしたいという思いが強く、その為には比較的給料の水準が高い金融機関に就職したいという一心でそれなりの勉強はした。

残念ながら
主人 山内 五郎は
2013年（平成25
年）1月4日なくなりま
した。脳梗塞と癌で、1
年3ヶ月入院生活してい
ました。静商同窓会に参
加するのを楽しみにして

城内中学在学中は野球少年であつた私は静岡野球部の練習試合を放課後によく観戦した。森

現在、は静岡野球部のほとんどの試合を観戦するほど夢中になっているが、在学中に春夏合わせて3回出場した甲子園には応援に行っていない。月謝の納入も容易でない経済的な事情で断

いましたが、だんだん歩くのが困難になり行けなくなりました。

同封された静岡の校舎の写真を飾らせてもらいました。きつと見てくれたいと思います。

山・中尾の静高バツテリに惚れ込んだ時代が懐かしく思い出される。城内中学同期の卒業生は549人でその内約160名位が静高に進学したと記憶している。静高に念した。クラブ活動は経費面も考慮して郷土研究部に入った。地味な存在であつたが素晴らしい友達に恵まれた。就職した銀行の上司の勧めもあり希望していた夜間通学も実現させてもらった。

広報掲載用の写真探しで昔のアルバムを見ながら、35年余の銀行員生活を振り返り、ご縁のあつた皆様への感謝の気持ちをも再認識した。

昭和 30 年当時の校舎正面玄関



松坂屋の階上から撮影した
静岡の昭和30年のイベント、
「車両を使った市内の各商店の
協力で行われた広告コンクール」